

続・足柄の旅 2022

旅のチカラ研究所

2022年4月

旅のチカラ研究所 植木圭二

神奈川県の宿泊割引制度（かながわ旅割）が始まり、神奈川県在住の友人と神奈川県の西部、足柄を旅してきた。隠れた名所、テレビの取材、森の中の温泉、美食に興じてきた。尚、本稿は2年前の「足柄の旅 2020」をトレースした形で、日帰りも可能なコースにした。

■名所巡り

秦野市の住宅地の一角に出雲大社がある。正確には「出雲大社相模分祠」で、私は3度目の参拝になるが、今回同行の小野田さんは初めての参拝だ。神奈川県で出雲大社に参拝することができることにとても驚いている。



【出雲大社相模分祠】

威風堂々とした本殿は出雲にある出雲大社に似ている大社造りで、出雲に来た気持ちになる。参拝作法も「2礼2拍手1礼」ではなく、出雲大社特別の「2礼4拍手1礼」で、なぜ特別かといえば、大国主（オオクニヌシ）を祀っているからだ。国譲りの神話では大国主が治めていた国、つまり日本を天照大御神に譲り、大国主が移り住んだ宮殿が出雲大社なので、他の神社とは別格になっている。（国譲りについては旅行記「大山の宿 2020」及び「先取り初詣秦野 2020」参照）

■洒水（しゃすい）の滝

山北町にある「洒水の滝」を訪れる。ここも私は過去に訪問したことがあるが、その時は滝を見るための遊歩道が崩落しており、滝の近くまで行くことができなかった。今回は新しい展望台（観瀑台）が出来ており、そこから滝を近くで見ることができる。226段の階段で登る高さ40mの観瀑台は2022年4月8日に完成した。本日は4月13日なので完成したばかりだ。

洒水の滝は3段の滝で、高さ69mの「一の滝」、16mの「二の滝」、30mの「三の滝」、3つ合わせると115mにもなる。有名な日光の華厳の滝は高さ97mだから、高さだけでは負けていない。ただ観瀑台から私たちが見ることができるのは一番下の一の滝だけになる。

この滝の存在を知っている人は意外に少ないが、観瀑台が完成して知名度が上がりそうだ。



【展望台の階段 左に洒水の滝】

私たちが観瀑台に登ると、完成したばかりの観瀑台を紹介するためにテレビ取材のクルーが来ていた。撮影ついでに私たちにインタビューをしたいとのことで、快く取材に応じる。テレビ神奈川の取材クルーということで神奈川県在住の私たちがこの滝に来た理由や、昔の遊歩道のことなどを10分程度聞かれたが、案の定、放送されたのは10秒ちょっとだった。



【テレビ神奈川の番組より】

■金太郎の故郷

足柄といえば金太郎が有名だ。日本の民話に桃太郎や浦島太郎などの“太郎”が多く登場するが、金太郎は他の太郎と違って実在の人物だ。金太郎は956年5月に誕生し、足柄で育ち、源頼光と出会い、京にのぼって坂田金時に改名し武将になった。

南足柄市から足柄峠に行く途中には金太郎が産湯を浸かった「夕日の滝」、「金太郎の生家跡」、「金太郎の遊び石」などがある。夕日の滝は標高約500mの地にあつて、高さ23mの立派な滝でマイナスイオンたっぷり感じて気持ち良い。5月に生まれた金太郎が産湯に浸かるには多少冷たいかもしれないが、5月といっても旧暦なので現在の6月頃だから元気な金太郎だから大丈夫だったのだろう。生家跡については土台の石が残っているだけだが、どう見ても1000年以上前のものには見えない。遊び石は、これを担ぐのは全く不可能で、この石の周りで遊んだといったところだろう。(これらの詳細は旅行記「足柄の旅2020」参照)



【夕日の滝】



【金太郎の生家跡 右は案内看板】

■万葉うどん

金太郎の故郷近くにある「万葉うどん本店」に立ち寄る。この店は古風で風情のある外観で、前回来た時には人がいっぱいに入れなかったが、今回は時間をずらしており入店できた。店内は古い道具などが置かれ懐かしい雰囲気とする。店主はうどんの本場の讃岐で修行したとのことで、夕日の滝から流れる清らかな水で打ったコシのあるうどんが評判だ。

いくつかあるメニューの中でも「湯うどん」が有名らしく、早速注文した。

出てきたものは釜揚げうどんのようなものだが、釜あげではないようだ。讃岐の釜あげうどんは、うどんが茹で上がった時に水洗いをせずに釜から直接そのまま器に取って付け汁で食べる。そのためにヌメリが残っているが、この湯うどんはヌメリがないので茹で上がった釜から出し、水で締めて水洗いして湯にいれたものらしい。

食感のコシがあって、ヌメリは感じない。そしてなかなか旨い。



【万葉うどん本店】



【湯うどん】

■大雄山最乗寺

伊豆箱根鉄道大雄山線の終点の大雄山駅は南足柄市の中心部で、そこから山の方に約 3km 車を走らせると大雄山最乗寺に着く。

小野田さんは「こんな大きく立派な寺が、こんなところにあったの!？」と驚きを隠せない。私は「そうですね、凄いでしょ」と以前 1 回来ただけなのに自慢げに答える。私も初めて来たときは同様に驚いたのでその気持ちは重々理解できる。それ程までに山奥の広大な土地に悠々とたたずむこの寺は存在感がある。



【大雄山最乗寺の境内 本堂は右側】

■おんりーゆー

最乗寺の近くに「おんりーゆー」という比較的新しい入浴施設があり、日帰り入浴が主体だが、泊まることもできる。この施設の特徴は何と言っても立地環境で、森林の中にたたずむ施設は、自然に同化するような感覚で入浴や休憩ができる。それゆえ“モダン湯治”というキャッチコピーがついており、現代的感覚で癒しを体験できる。

中庭の林の中に浮島のようなウッドデッキがあって、そこにはハンモックがいくつか置かれている。それを囲むようにウッドデッキの回廊があって、リクライニングチェアや飲み物を置くテーブルもあり、そんな光景を見ているだけでも十分に癒される。



【おんりーゆーの中庭】

大浴場には内湯と露天風呂、それぞれ温度の異なる湯船があって、ぬるい湯に浸かっていたら長湯ができる。露天風呂は木々に囲まれており森林浴と温泉浴が同時に楽しめる。単に開放的だけでなく、これだけ森林の中に居ることを感じさせてくれるのは珍しい。露天風呂の脇には小川が流れており、森林と青空に小川のせせらぎと鳥の鳴き声も加わり、まさしくモダン湯治だ。



【おんりーゆーの露天風呂 手前と奥の浴槽は温度が異なる】

今回泊まる部屋は以前泊った時と同じ 16 畳の和室、2 人で泊まるにはもったいない程だ。日帰り入浴施設なので施設が閉まった後に宿泊者が入浴するために各部屋に小さな露天風呂がある。

料理はかながわ旅割を利用したので今回は豪華にした。伊勢海老の刺身、鹿肉のジビエ料理、国産牛のしゃぶしゃぶなど実に素晴らしい。伊勢海老の頭を食事の途中で回収して最後の椀物の味噌汁に入って出てくるという演出もなかなか良い。



【おんりーゆーの夕食】

■翌日は、土産物を買うだけ

翌朝、日帰り入浴施設が開き大浴場でゆっくり湯に浸かる。実はこの宿は宿泊翌日も日帰り客と同じように夜まで入浴できる。しかしさすがにこれから夜まで居ることはせずに 11 時にチェックアウトし、宿を後にする。

私たちは土産物を買うために、小田原市早川の干物屋「山安」ターンパイク店に立ち寄る。

山安は神奈川県内に複数店舗あり手広く事業を展開しているが、自社の干物の加工工場がこの近くにあるので、この店にはキズモノなどのワケアリ商品が並び格安で買い物ができる。以前遠方から来た友人を連れて行ったら、あまりに安いので自宅への土産以外に自分の実家や奥さんの実家にまで直送していた程だ。

少し話はそれるが、私がこれは本当に美味しいと思う鰯の干物は、静岡県伊東市の宇佐美にある「あじー (いち)」という小さな干物屋のものだ。この店は店先で干物を天日干しして生産販売している干物屋で、山安のような大きな加工工場ではないが、実に良い味を出している。

実は県の条例で、神奈川県では天日干しが禁止されているが、静岡県ではそのような条例がないので天日干しできる。そのためにあじーは昔ながらの良い味を出せるのだろう。

しかしそのゆえ山安は天候に左右されない工場での大量生産で販売量を延ばし現在に至っている。あじーなど静岡県の干物屋は昔ながらの作り方で細々と店を続けている。大量生産して安く提供するか、昔ながらの製法で味を伝承させるか、事業経営と食文化の関係は奥が深い。

そしてそれに政治がどう関与しているかも、この事例一つとっても実に興味深い。

今回の旅は1泊2日ではあるが、2日目は土産を買って帰宅しただけなので、宿泊せずに夜までの日帰り入浴にすれば、日帰り旅行としても十分に楽しむことができることが分った。

この内容で日帰り旅行とは、かなり濃い日帰り旅になるだろう。その場合はもう少し朝早く出る方が良いのかもしれない。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

「おんりーゆー」は泉質3、風呂5、料理4、コスパ3、サービス4、建物・部屋5、立地環境5、総合点4.14になった。前回訪問と総合点は同じだが、個別の値は若干変わっている。

泉質は低張性アルカリ単純泉、pHは10.1、湧出温度は32℃となっている。

■旅の記録

旅行は2022年4月13日（水）～4月14日（木）で実施され、行程を以下に記す。

- ・1日目 10時前に自宅を出て小野田さんを車でピックアップして以下は全て車で移動、秦野市の出雲大社相模分祠、山北町の洒水の滝、南足柄市の万葉うどんで昼食、夕日の滝、金太郎の遊び石、金太郎の生家跡を見学し、大雄山最乗寺を参拝して、15時「おんりーゆー」到着しチェックイン
- ・2日目 11時に宿をチェックアウト、小田原市早川の干物屋「山安」に立ち寄り買い物、自宅に戻り、近くのスシローで打ち上げを行う

費用は1人約1万5千円、内訳を以下に示す。

- ・宿泊費 宿泊入館料 10480円（1人分、2食付き）
※料理特選プラン 15330円＋入湯税 150円－かながわ旅割 5000円＝10480円
- ・飲食費 昼食 万葉うどん 520円
夕食時の飲み物、持ち込んだアルコール類 約4000円（1人分で約2000円）
打ち上げ費用はかながわ旅割のクーポン券を利用して無料
- ・交通費 ガソリン代と有料道路 約2000円（1人分で約1000円）